

Daily Report(号外)

～FOMCの結果について～

概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は、1月28～29日に開いたFOMC(連邦公開市場委員会)で、フェデラルファンド(FF)金利の誘導目標を4会合ぶりに4.25-4.50%に据え置くことを全会一致で決定しました。

FOMC後に発表された声明文では、インフレについて前回同様、「幾分高止まりしている」との文言は残しつつ、「インフレは2%の目標に向けて進展を示した」との文言は削除しました。

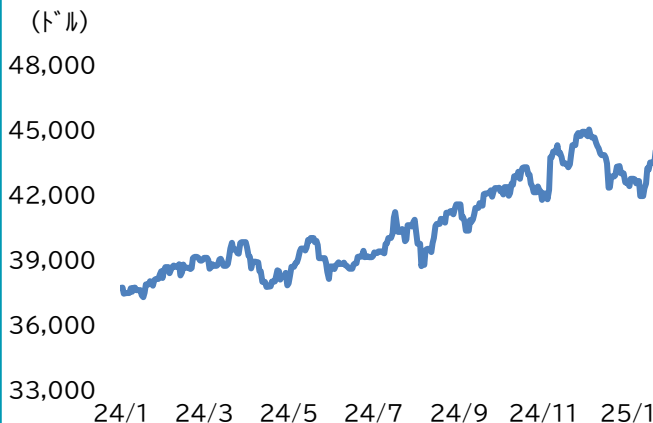
パウエル議長はFOMC後の記者会見で「金融政策が景気を抑制する度合は弱まっており、経済は全体的に堅調であることから、政策スタンスの調整を急ぐ必要はない」と、連続利下げを停止した背景を説明しました。声明文から「インフレは2%の目標に向けて進展を示した」との文言を削除したことについては、文章を短くしただけで、シグナルを送るための変更ではない、との見解を述べました。また、トランプ大統領の移民・関税・財政政策については、どのような政策が実施されるか分からず、政策が明らかになるまで様子を見る意向を示した一方、トランプ大統領が「パウエル議長よりも自分の方が金利について理解している」と発言したことについてはコメントを避けるとともに、トランプ大統領からの接触は無いと述べました。

市場の反応

今回のFOMCの結果を受けて、米国株式市場は下落し、債券市場は米10年国債利回りが一時上昇しました。声明文の発表後、NYダウは下落、米10年国債利回りは上昇しましたが、パウエル議長が記者会見でインフレに関する文言の削除はシグナルを送るためではないと否定すると、NYダウは下落幅を縮小し、米10年国債利回りは低下に転じました。NYダウは前日比136.83ドル安の44,713.52ドルで終えた一方、米10年国債利回りは前日と変わらず4.53%で終わりました。

外国為替市場では、ドル円は一時155円台後半まで円安・ドル高が進む場面もありましたが、パウエル議長の記者会見後は155円台前半まで戻りました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

また、シミュレーション等(前提は資料参照)については結果を確約するものではありません。

評価及び今後の見通し

今回のFOMCは概ね予想通りの内容で、大きなサプライズはありませんでした。パウエル議長は、次回3月のFOMCで利下げを実施する可能性を問われ「利下げを急ぐ必要はない」と回答し、利下げを見送る可能性が高いことを示唆しました。

3月のFOMCでは、FOMC参加者による経済見通しが発表される予定です。トランプ大統領の政策が明らかになるにつれ、経済見通しがどのように変化するのが注目されます。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
1/30	ECB理事会
2/19	FOMC議事録(1月分)
3/18-19	FOMC
3/18-19	日銀金融政策決定会合

出所: Bloomberg